

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100364	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	令和4年12月1日
法人名	株式会社 三文サービス		
事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台		
所在地	(234-0054) 横浜市港南区港南台6-9-26		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年6月25日	評価結果 市町村受理日	令和6年8月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様がいつまでもお元気に生活できるよう、「ライフキネティック」という機能訓練の専門講師による定期的な体操と、公園の隣にある立地を活かし日々の外出支援を積極的に行っています。併設している事業所が複数あり、本来GHには配置要件のない看護師が併設施設より毎日午前と午後に来て下さり、利用者様の体調管理をサポートしてくれます。これまで20名以上のご利用者様を看取っておりますが、多くの利用者様は寝たきりになることなく最期を迎えられています。平均居住年数も4年半近くと長く穏やかに生活を営めていただける所が強みです。また当該看護師は法人の安全衛生委員として、職員の健康管理も包括的に行っており、法人として横浜市から「健康経営認証AAA」を3期連続で受賞しております。横浜市で最も事故報告の多い誤薬事故対策として、開所当時から薬局と連携し、服薬管理ロボットの導入を行っており、誤薬事故の軽減対策に努めています。また職員の配薬負担の軽減にも繋がっています。他にも睡眠状況分析と夜間の見守り支援のために眠りスキヤンの導入や介護負担軽減のためのリフト浴の導入など、先進機器導入による職員の負担軽減にも鋭意努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年7月25日	評価機関 評価決定日	令和6年8月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR根岸線「港南台」駅南口から横浜市営バス111系統バス「上大岡駅前行」に乗り7分、バス停「臼杵」で下車し徒歩2分の所にあります。港南台南公園に面し、緑に恵まれた環境となっています。敷地内には同法人の通所介護事業所や訪問介護事業所が隣接しています。 <優れている点> 利用者、家族、地域から愛される事業所づくりを目指して、同一法人の通所介護事業所などと連携しながら充実した支援サービスの提供に努めています。利用者の健康管理について、協力医療機関からの訪問診療や訪問歯科診療に加え、看護師が毎日午前と午後巡回し利用者の健康状況や日常生活動作状態についてチェックしており、いつでも相談できる体制となっています。専門講師による運動と脳トレを組み合わせた機能訓練を週1回実施し、「できる、できない」ではなく「取り組む姿勢」を大切にし、脳機能や神経の伝達に刺激を促し、利用者の身体機能の維持に努めています。毎月、利用者の生活の様子を写真付きで家族に報告し、携帯電話の情報通信アプリを活用して家族とコミュニケーションを図り、タイムリーに利用者の状況を伝えています。 <工夫点> 災害時の停電に備えて本格的な発電機を設置しています。また、業務の効率化の一環として眠りスキヤンや服薬ロボットを導入し、転倒事故や誤薬防止に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確保する場がまだまだ不十分に思う。	隣接する通所介護・訪問介護事業所と連携し、地域の高齢者が地域で最期まで生活できるよう支援していくことを基本目標とし、地域から愛される事業所を目指しています。利用者の意思を尊重し、職員が個別アセスメントしていく中で最適な介護サービスを選択できるよう支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、近隣の団地の方がボランティアとして週に2回訪れ、利用者様と交流されている。保育園の園児達とハマロードの整備を定期的に行っている。登下校の交通整理活動にも今年から参加している	ボランティアを受け入れ、ケアの充実に努めています。自治会の呼びかけに応じて、近くの保育園児や企業の社員と一緒に利用者も通り沿いの花壇の手入れを行っています。また清掃活動や小学校の登下校時の交通整理にも参加し、地域とのつながりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護スクール事業を法人として行っており、地域の意欲のある方への資格取得支援を行っている。民生委員の方から定例の会合への参加を求められており勉強会の企画立案と連携が進む予定になっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、面会形式もしくは資料送付にて区役所、ケアプラザ、民生委員にご参加いただき、活動報告を行いながら、意見を拝聴するように努めている。事業所見学会の開催を打診され、近日取り組む予定。	運営推進会議で港南台地域ケアプラザ職員から、地域住民対象に事業所の事業内容を理解するための勉強会を実施して欲しいとの提案があります。グループホームの見学会開催や「家族介護の悩み」、「オムツの交換」など地域住民の助けとなるテーマを取り上げ、ホームが存在することによる地域への安心感を持ってもらえるよう、実現に向けて検討しています。	運営推進会議家の参加の期待や、家族会の再開を期待します。また、家族へ会議内容の周知も期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	個別支援において、施設の設備環境の問題で入浴が叶わない利用者様に対して、市と相談しながら別事業所の入浴設備を活用して入浴支援を継続的に行う事が出来るようになった	港南区の高齢障害支援課に事業活動について相談しています。また、事業所の浴室設備では入浴できない利用者の個別支援の対応を横浜市介護事業指導課に相談しています。隣接する事業所の浴室設備を利用することで入浴支援が継続できたケースもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に横浜市より実態把握のためのアンケート調査依頼があり、それを通じて理解度のチェックを行い、必要な指導と助言を行うよう努めている。またeラーニングでの研修も定例で行い、指導的職員による現場での不適切事例の共有と改善も定期的に行っている。	身体拘束等適正化の委員会の構成員は管理者、フロアリーダー、ケアマネジャーで、定期的に研修を実施しています。介護現場において不適切な言葉遣いがあった時はその場で注意することを徹底し、利用者に対して「危ない」「ちょっと待って」ではなく、不安にさせないために「どうしたの」と声掛けするよう指導しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	上記同様に対応を行い、定期ミーティングを通じて不適切事例があった際に直ぐに共有と改善を行うように努めている。	ミーティングで取り上げた事例に、フロアの職員が一人の時のトイレ介助があります。他の利用者にも目配りしながら介助する難しさはこれが正解というやり方ではなく、トイレの扉を開けざるを得ない時にはなるべく廊下の奥のトイレを利用するなど、支援とプライバシー保護とのバランスを考えながら対応することが大切との認識を共有しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に滞りなく行うように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の発案ですき焼きパーティを催したり、1階と2階の利用者様同士で積極的に交流が図れるように共同でレクを行う場面を増やしたりしている。ご家族からの要望で新型コロナの5類移行後の対応として居室内での面会を再開した。	利用者発案のすき焼きパーティ等ユニット合同でイベントを実施し、フロア間の交流につなげています。利用者が安心して家族と過ごせる環境づくりを大切にし、コロナ禍で訪問を差し控えていた家族にも面会に来るように働きかけ、面会場所を玄関にしたり公園へ外出してもらうなど配慮したうえで実現しています。五類移行後は居室内での面会もいち早く解禁しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各職層ごとのミーティング機会を活用し、意見や提案を集約、反映している。また適宜、管理者より職員に声掛けし、意見や提案を聞くようにしている	フロアリーダーなど管理職の打ち合わせの中で、介護支援に関することやイベントなど職員の意見や提案を反映できるよう努めています。管理職は職員に声掛けし、相談しやすい雰囲気に配慮すると共に現場において皆で考えることを大切にしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度の処遇改善加算の見直しに伴い、給与水準をさらに向上できるよう規則の変更を行った。高齢従業者に対し、無理なく勤務が出来るよう時短出勤など柔軟な勤務体制を整備した	介護報酬の見直しに伴い、職員の処遇改善と給与水準の見直しを行って職員のモチベーションの向上に努めています。雇用体制を工夫し、職員の家庭環境などに配慮し、隣接している他の事業所との兼務など、勤務が継続できるよう柔軟な就業環境づくりに取り組んでいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している	職員の研修については隣接する事業所職員を含めて毎月集合形式による法定研修を実施しています。また、事業所の内部研修では、介護の実務として入浴介助やオムツ交換、職員のメンタルヘルスケア、健康管理方法などを取り上げ、知識を活かせるよう取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業他社への訪問機会を設け、自身の職場内の課題解決へのヒントを得るよう努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多い利用者も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多いご家族も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人の理念や方針にはご理解を頂きながらも、提供するサービスを強要することなく、ニーズに応じた柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事や手伝って頂けることは、できる限り行って頂く事を基本として、職員もご利用者様も共に役割を持った関係性が維持できるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	LINEを活用し、細かい事でも報告や相談がしやすい環境になったことで、積極にご家族と一緒に方針を考え、時には外出支援などにも協力を頂くなど良い関係性の構築に努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	同じ自治会に住まわれていた利用者様もあり、自治会の行事に積極的にお連れして、地域の方との交流を楽しんで貰っている。また地域の方から面会の打診も受け柔軟に対応をしている。	同じ地域に住んでいた知り合いと一緒に地域の自治会が主催する敬老会や花見会に参加するなど、つきあいを大切にしている利用者がいます。買物が好きな利用者は職員が近くのスーパーに出かける時に一緒に外出し、好きな嗜好品を買うのを楽しみにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることのないよう適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	具体的事例は今のところないが、あれば相談支援に応じる体制はある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月定例の職員ミーティングにて確認と共有を行うほか、半年ごとの定期的なアセスメントとモニタリングを通じ把握するように努めている。	フロアごとの定例ミーティングや申し送りの中で、本人の思いや意向の把握に努め、日々の生活を安定して過ごせるよう取り組んでいます。隣接するデイサービス等から入居する利用者も多く、入居時に本人の希望等について情報共有し、支援が継続するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人の状態像に基づいたサービス提供に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	PDCAサイクルを意識し、関係する職員全員でカンファレンスを行い、定期でのモニタリング評価のほか、状態変化が見られた利用者のプラン見直しを行うようにしている。変更については事前にご家族に説明を行い、要望を聞く体制をとっている	日常の申し送りや月1回のミーティング、医師からの情報を計画作成者が把握し、適宜ケアプランに見直しを行っています。家族にはケアプラン変更時のみでなく、状態変化時に支援方針の相談・確認を行っています。ケアプランは個別の介護記録表に添付し、現場スタッフはそれを確認しながらプランに則したケアを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録用紙にケアプランを添付しており、常にプランに沿った実践をしているかを意識し、支援した結果を記録に反映し、特変が見られる場合は申し送りノートなどで共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しい事案についても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所にある公園への積極的な外出支援や、自治会、保育園などとの地域交流、ケアプラザからの地域の催し物の情報提供などを受けながら、様々な活動への参加を促せるよう努めている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本は提携している医療機関にかかりつけ医をお願いしているが、近隣に元々のかかりつけ医をお持ちの利用者様は継続した関係性を維持できるよう支援し、月に2回以上の定期往診の他にも、随時連絡体制をとっている	提携医療機関の訪問診療の他、元々のかかりつけ医を希望する場合はその医療機関からの訪問診療を受けることも可能です。訪問歯科の定期診療もあり、歯科治療や口腔ケアを受けることができます。容態の変化に早期に対応できるよう、「往診連絡票」の活用や情報共有など医師や法人看護師との連携体制が構築されています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日看護師に訪問してもらい、日々の健康状態の共有と、些細な事でも相談助言を受けられる関係性を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に家族・本人の意向を聞き取り説明と同意を得ているほか、実際に余命宣告を受けた後も意向の確認を取りながら家族・医師・看護師と連携して支援に努めている。職員に対しては適宜、研修を実施している他、看取った後の心理的フォローも行っている	長期入居と高齢化により事業所で看取りを行うケースが増えています。終末期を迎える際は早期に医師から家族に説明を行い、容態の変化に合わせて看護師や管理者が家族に説明を行い、同意確認を行っています。急変時には提携医療機関に連絡・診療する体制があります。管理者、看護師は看取り時の職員への個別ケアの周知の他、看取り後の喪失感に配慮し、サポートしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期の研修に限らず、実践場面でのOJTを行いながら経験を積めるよう努めている。職員の不安軽減の為に管理者が常にフォローアップできる連絡体制をとっている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的【年2回以上】に避難訓練を実施し、当日出勤者と利用者様に参加いただき避難方法や課題の共有を行っている。非常用発電機を導入し、災害時でも生活の継続が出来るよう環境整備を行った。	非常用の発電機を設置し、停電時でも最低限の必要電力を3日間使用できる環境を整えています。エレベーターは車いす1台分しか積載出来ない為、災害時避難を考慮して車いすの利用者は1階に居室を配置するようにしています。災害備蓄品は1階と2階に分散配置し、食料品は2階に保管しています。災害時の衛生面や資源を考慮し、排泄物を密閉できる電動ポータブルトイレも備えています。	

自己評価	外部評価	項	目	自己評価	外部評価		
				実施状況		次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。		日頃、〇〇さんと敬意を持った呼び方をするところから徹底し、人生の先輩に対する敬意を忘れないよう周知している。研修は定期的に行っているほか、ミーティングなどでも折を見て注意喚起を行っている。個人情報の取り扱いについても漏洩リスクを自覚させるよう努めている	「利用者は人生の先輩である」「利用者は家族にとって大切な人である」との意識で敬意を持った呼び方を徹底しています。研修では個人情報漏えいの事件例を挙げ、及ぶ被害の重大さを職員に伝えています。記録物はフロアの目につく場所に置かないようにし、用いない時はフロア事務所の鍵付き書庫に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		全ての支援に入る際に必ず事前の説明と同意を得るようにし、本人から希望や意思表示があった際は尊重するように心がけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		支援内容やプログラムは目安とし、体調や本人の気分などを伺いながらそれを優先できるよう配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		ご家族とも協力し、季節感のある洋服やご本人が好きな洋服を着られるよう環境整備に努めているほか、できる限り、一緒に着替えを選ぶようにしている			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		準備や配膳、下膳、片付けなど食事に関する一連の流れから、出来る限り一緒に行うよう努めている。またお菓子作りやお鍋など皆で楽しめるメニューも定期的に提供して楽しめるよう配慮している	食事は管理栄養士による献立を法人の厨房で調理し、各フロアに届けています。フロアで米飯、汁物、刻み・ミキサー調理を行い、配膳しています。出来る利用者は配膳や下膳を職員と一緒にしています。月1回のおやつ作り、2ヶ月に1回のお楽しみメニューでは、職員が利用者のリクエストから企画し、すき焼きなどを利用者と一緒に調理しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医、看護師、歯科医師、管理栄養士と連携をとりながら、それぞれの健康状態、口腔嚥下機能も考慮した支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、各自の能力に応じた口腔ケアを行うとともに、歯科医師、歯科衛生士から助言を受けながら支援している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いながら、状況の確認、個別の能力の把握を行い、必要である方のみ声かけを行いながら失敗しないよう支援している。またトイレ内でうまく排泄できるよう座る時間に余裕を持たせる等工夫している	座位保持が困難な人以外はトイレでの排泄ケアを行い、排泄チェック表で個別の排泄リズム・能力に応じた支援を行っています。入院中に尿意が無くなりオムツになった人が、退院後の排泄ケアでトイレ誘導し、水流の音で排尿を促す工夫を行うことにより、尿意が回復し、トイレでの排泄が出来るようになっていきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取のあり方や、排泄に繋がる下腹部を意識した体操、適切な薬などでのコントロールなどをおこなって支援している		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回、順番は決めているものの、当日の体調や気分に応じて順番を入れ替える等柔軟に対応している。拒否がある際はその理由を探りながら、気持ちよく入浴できるよう配慮している。柚子湯や菖蒲湯などの季節感も大切にしている	可動式リフトチェアや同一法人隣接施設の機械入浴設備で、身体機能が低下しても入浴を楽しむことが出来る環境を整えています。入浴に不安が強い利用者には、受け入れてもらいやすい言葉かけをしたり、援助内容を伝えるなど、利用者のペースに合わせた入浴支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠りスキャンを活用し、睡眠分析を行いながら適切に睡眠支援を行うとともに、施設のプログラムを優先することなく体調に応じた支援を心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取り組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	安眠につながる日光浴を意識し、晴れの日には積極的に散歩支援をしているほか、公園清掃など地域行事にも積極的に参加して交流が保てるよう努めている	公園への散歩の他、歩行可能な人は近所のスーパーに職員と一緒に買い物に出かけています。敷地内の庭の花壇の世話や地域の人と協力して歩道の花壇の世話も行っています。家族の面会時には一緒に公園などに外出して気分転換を図ってもらうようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理上の課題もあることから金銭管理支援は行っていない。但し、買い物などは一緒に行って本人が買いたいものを選んでもらい、立替で対応しているケースもある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況		次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	テレビ電話での面会支援や、年賀状など手紙での交流を支援している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けと一緒に作り楽しんだり、寒がりな人や歩行力に応じて席配置などにも配慮している。また利用者同士の相性も見極めながら互いに交流が促進されるように配慮している	職員が毎日清掃・消毒を行い、清潔な環境を保っています。1階リビングにメダカの水槽があり、利用者も職員と一緒に世話をしています。利用者が過ごす空間には、個人情報に配慮し生活の場らしい雰囲気をつくるため業務内容の掲示物を極力無くし、利用者が好む絵画や手工芸作品を飾り付けています。事務所とキッチンがオープンになっており、リビングや居室入口に目が行き届く配置になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にいてもTVを見たりソファでくつろいだり、窓辺で日光浴ができたりと好きなように過ごしていただけるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明、ベッド、エアコン、カーテン、収納スペースは予め設置しているが、基本的にはそれぞれの思い思いに家具などを持ち込んで頂けるよう持ち込み制限のルールは少なくしている	居室担当者が利用者と一緒に居室の備品や衣替えなどの確認を行っています。利用者の今までの生活環境に近い配置に整えたり、身体能力に応じて安全な動線に配慮した家具・手すりを配置するなど、個々の状態変化に合わせた空間づくりを検討し、整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	わかりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境配備に努めている		

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確認する場がまだまだ不十分に思う。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、近隣の団地の方がボランティアとして週に2回訪れ、利用者様と交流されている。保育園の園児達とハマロードの整備を定期的に行っている。登下校の交通整理活動にも今年から参加している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護スクール事業を法人として行っており、地域の意欲のある方への資格取得支援を行っている。民生委員の方から定例会の会合への参加を求められており勉強会の企画立案と連携が進む予定になっている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、面会形式もしくは資料送付にて区役所、ケアプラザ、民生委員にご参加いただき、活動報告を行いながら、意見を拝聴するように努めている。事業所見学会の開催を打診され、近日取り組む予定。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	個別支援において、施設の設備環境の問題で入浴が叶わない利用者様に対して、市と相談しながら別事業所の入浴設備を活用して入浴支援を継続的に行う事が出来るようになった			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に横浜市より実態把握のためのアンケート調査依頼があり、それを通じて理解度のチェックを行い、必要な指導と助言を行うよう努めている。またeラーニングでの研修も定例で行い、指導的職員による現場での不適切事例の共有と改善も定期的に行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	上記同様に対応を行い、定期ミーティングを通じて不適切事例があった際に直ぐに共有と改善を行うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に滞りなく行うように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の発案ですき焼きパーティを催したり、1階と2階の利用者様同士で積極的交流が図れるように共同でレクを行う場面を増やしたりしている。ご家族からの要望で新型コロナの5類移行後の対応として居室内での面会を再開した。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各職層ごとのミーティング機会を活用し、意見や提案を集約、反映している。また適宜、管理者より職員に声掛けし、意見や提案を聞くようにしている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度の処遇改善加算の見直しに伴い、給与水準をさらに向上できるよう規則の変更を行った。高齢従業者に対し、無理なく勤務が出来るよう時短出勤など柔軟な勤務体制を整備した		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業他社への訪問機会を設け、自身の職場内の課題解決へのヒントを得るよう努めている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多い利用者も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族との面談などを通じ、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。法人内の別サービス利用時から関わりの多いご家族も多く、割とスムーズに利用スタートできる環境にある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人の理念や方針にはご理解を頂きながらも、提供するサービスを強要することなく、ニーズに応じた柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事や手伝って頂けることは、できる限り行なって頂く事を基本として、職員もご利用者様も共に役割を持った関係性が維持できるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	LINEを活用し、細かい事でも報告や相談がしやすい環境になったことで、積極的にご家族と一緒に方針を考え、時には外出支援などにも協力を頂くなど良い関係性の構築に努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	同じ自治会に住まわれていた利用者様もおり、自治会の行事に積極的にお連れして、地域の方との交流を楽しんで貰っている。また地域の方から面会の打診も受け柔軟に対応をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることのないよう適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	具体的事例は今のところないが、あれば相談支援に応じる体制はある		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月定例の職員ミーティングにて確認と共有を行うほか、半年ごとの定期でのアセスメントとモニタリングを通じ把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人の状態像に基づいたサービス提供に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	PDCAサイクルを意識し、関係する職員全員でカンファレンスを行い、定期でのモニタリング評価のほか、状態変化が見られた利用者のプラン見直しを行うようにしている。変更については事前にご家族に説明を行い、要望を聞く体制をとっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録用紙にケアプランを添付しており、常にプランに沿った実践をしているかを意識し、支援した結果を記録に反映し、特変が見られる場合は申し送りノートなどで共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しい事案についても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所にある公園への積極的な外出支援や、自治会、保育園などとの地域交流、ケアプラザからの地域の催し物の情報提供などを受けながら、様々な活動への参加を促せるよう努めている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本は提携している医療機関にかかりつけ医をお願いしているが、近隣に元々のかかりつけ医をお持ちの利用者様は継続した関係性を維持できるよう支援し、月に2回以上の定期往診の他にも、随時連絡体制をとっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日看護師に訪問してもらい、日々の健康状態の共有と、些細な事でも相談助言を受けられる関係性を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に家族・本人の意向を聞き取り説明と同意を得ているほか、実際に余命宣告を受けた後も意向の確認を取りながら家族・医師・看護師と連携して支援に努めている。職員に対しては適宜、研修を実施している他、看取った後の心理的フォローも行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期の研修に限らず、実践場面でのOJTを行いながら経験を積めるよう努めている。職員の不安軽減の為にも管理者が常にフォローアップできる連絡体制をとっている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的【年2回以上】に避難訓練を実施し、当日出勤者と利用者様に参加いただき避難方法や課題の共有を行っている。非常用発電機を導入し、災害時でも生活の継続が出来るよう環境整備を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日頃、〇〇さんと敬意を持った呼び方を するところから徹底し、人生の先輩に対 する敬意を忘れないよう周知している。 研修は定期的に行っているほか、ミーティ ングなどでも折を見て注意喚起を行って いる。個人情報の取り扱いについても漏 洩リスクを自覚させるよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全ての支援に入る際に必ず事前の説明と 同意を得るようにし、本人から希望や意 思表出があった際は尊重するように心が けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	支援内容やプログラムは目安とし、体調 や本人の気分などを伺いながらそれを優 先できるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族とも協力し、季節感のある洋服や ご本人が好きな洋服を着られるよう環境 整備に努めているほか、できる限り、一 緒に着替えを選ぶようにしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や配膳、下膳、片付けなど食事に関 する一連の流れから、出来る限り一緒 に行うよう努めている。またお菓子作りや お鍋など皆で楽しめるメニューも定期的 に提供して楽しめるよう配慮している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医、看護師、歯科医師、管理栄養士と連携をとりながら、それぞれの健康状態、口腔嚥下機能も考慮した支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、各自の能力に応じた口腔ケアを行うとともに、歯科医師、歯科衛生士から助言を受けながら支援している		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いながら、状況の確認、個別の能力の把握を行い、必要な方のみ声かけを行いながら失敗しないよう支援している。またトイレ内でうまく排泄できるよう座る時間に余裕を持たせる等工夫している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取のあり方や、排泄に繋がる下腹部を意識した体操、適切な薬などでのコントロールなどをおこなって支援している		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回、順番は決めているものの、当日の体調や気分に応じて順番を入れ替える等柔軟に対応している。拒否がある際はその理由を探りながら、気持ちよく入浴できるよう配慮している。柚子湯や菖蒲湯などの季節感も大切にしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠りスキャンを活用し、睡眠分析を行いながら適切に睡眠支援を行うとともに、施設のプログラムを優先することなく体調に応じた支援を心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	安眠につながる日光浴を意識し、晴れの日には積極的に散歩支援をしているほか、公園清掃など地域行事にも積極的に参加して交流が保てるよう努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理上の課題もあることから金銭管理支援は行っていない。但し、買い物などは一緒に行って本人が買いたいものを選んでもらい、立替で対応しているケースもある		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	テレビ電話での面会支援や、年賀状など手紙での交流を支援している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを一緒に作り楽しんだり、寒がりな人や歩行力に応じて席配置などにも配慮している。また利用者同士の相性も見極めながら互いに交流が促進されるように配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にいてもTVを見たりソファでくつろいだり、窓辺で日光浴ができたりと好きなように過ごしていただけるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明、ベッド、エアコン、カーテン、収納スペースは予め設置しているが、基本的にはそれぞれの思い思いに家具などを持ち込んで頂けるよう持ち込み制限のルールは少なくしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	わかりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境整備に努めている		

2024年度

事業所名 プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
作成日：令和6年 8月20日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	コロナ禍を過ぎてから運営推進会議への家族の出席が無くなっている。	ご家族持ち回りで、出来る限り会議への参加を要請するようにお願いし、参加を促す	まずは9月に家族会を再開予定なので、そこで運営推進会議への参加要請と運営推進会議の目的を説明の上、ご理解頂くよう努めていく	3ヶ月
2	7	家族アンケートにてオムツ交換頻度に対する不満の声を頂戴したが、こちらからの支援についての説明が不足している	家族との情報共有を密に行い、さらなる信頼関係を構築していく	家族との定期面談を実施して、日頃の介護の実績を記録を通じて説明し、ご家族からの要望や意見を聞く機会を設けていく	12ヶ月
3	10	職員の高齢化に伴い、なかなか人材育成が思うように進まず、一部職員への負担が増大している	全体的なスキルアップを図り、サービスの質向上に繋げていく	生産性向上改善加算を意識した取り組みを通じて業務の効率化とそれに伴うサービスの質向上、人材育成を図る	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月